ID注1)	112101	公開ﾚﾍﾞﾙ注1)	C	保管形式注1)		保管場所注1)		前回ID	

報告書名称/調査名称	白神山地の登山道における土壌硬度及び浸食状況等に関する調査 ・平成２１年度白神山地生物多様性保全調査委託業務報告書（平成２２年２月） ・平成２２年度白神山地エコツーリズム影響調査業務報告書（平成２３年３月） ・平成２３年度白神山地エコツーリズム影響調査業務報告書（平成２４年３月）	発行年月/報告年月	2012年 3月
		資料形式注2)	報告書

調査機関	青森県自然保護課	委託機関	環境工学
調査開始年	2009年 8月	調査期間	2009年 8月 ～ 2012年 3月
調査頻度注2)	毎年 1 時期	調査時期注2)	秋 — —
ﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ計画	2012年3月 策定	区分注2)	Ⅲ
大区分注2)	1	小区分注2)	(2)

調査箇所・範囲注3)

☐ 核心地域　☑ 緩衝地域　☑ 周辺地域

☐ GPS等の位置データあり

※周辺地域における調査箇所は備考欄に示す。

調査手法

【目的】
白神山地に整備された登山道等における人為的な自然環境への影響を把握すること

【調査項目・方法】
1　土壌硬度
　３０m間隔又は１００m間隔で調査地点を設定し、歩道中央部で山中式土壌硬度計を用いて３回測定し、平均値をその地点の土壌硬度（mm）とした。

2　浸食状況
　長さ、幅、深さを計測し、深さ３０ｃm以上または１５０ｃm以上の浸食について、位置を平面図に記入した。

3　複線化及びぬかるみの状況
　長さと幅を調査するとともに位置を平面図に記入した。

4　外来植物侵入状況
　生育している外来種を調査し、生育箇所を平面図に記入した。

【調査箇所】
H21･･･暗門の滝ブナ林散策道、自然観察歩道高倉森コース、自然観察歩道太夫峰コース
H22･･･自然観察歩道マテ山コース
H23･･･自然観察歩道二股コース、自然観察歩道十二湖コース

結果概要（スペースに収まるように入力してください）

○暗門の滝ブナ林散策道（L=1.58km）
　土壌硬度全線平均値25.4mm、浸食箇所、複線化、ぬかるみなし、外来種はオオバコを確認。（入山者推定27,000人）
○自然観察歩道高倉森コース（L=5.88km）
　土壌硬度全線平均値21.7mm、浸食箇所無し、複線化2箇所、ぬかるみ6箇所、外来種はアメリカセンダングサ及びオオバコを確認。
　（入山者数推定2,500人）
○自然観察歩道太夫峰コース（L=3.13km）
　土壌硬度全線平均値18.2mm、浸食箇所、複線化、ぬかるみはなし、外来種はオオバコを確認。（入山者推定100人程度）
○自然観察歩道マテ山コース（L=6.57km）
　土壌硬度全線平均値22.7mm、路肩崩壊2箇所、洗掘76箇所、複線化3箇所、ぬかるみ68箇所、外来植物はイタチハギ、シロツメクサ、ヘラオオバコ、ブタナ、ヒメジョオン及びオオバコを確認。登山口広場での確認が主であるがオオバコとシロツメクサは山頂付近でも確認。（入山者推定3,000人）
○自然観察歩道二股コース（L=3.91km）
　土壌硬度全線平均値19.4mm、路肩崩壊4箇所、洗掘31箇所、複線化なし、ぬかるみ1箇所、外来植物はオオバコを8箇所で確認。（入山者数については白神岳登山口を通過する約3,000人のうちごく一部と思われる。）
○自然観察歩道十二湖コース（L=9.46km）
　土壌硬度全線平均値17.1mm、路肩崩壊5箇所、洗掘18箇所、複線化1箇所、ぬかるみ8箇所、外来植物はオオバコを73箇所（うち55箇所は崩山登山口～崩山間で確認）。（入山者数については、崩山登山口を通過する約900人のうち一部は崩山まで入山し、崩山から先への入山はごく小数と思われる。）
【まとめ】
いずれの調査箇所においても浸食等は見られるものの、オーバーユースによる著しい荒廃は認められず、土質や地形の特徴など自然由来の荒廃と考えられる。そのため特段の利用規制は必要としないが、荒廃を防止するための簡易な対策等は必要であるとした。

問い合わせ	青森県自然保護課 〒０３０－０８５７　青森県青森市長島一丁目1-1 TEL０１７－７３４－９２５７
	≪原本（データ）の帰属について≫

注1）「ＩＤ」「公開レベル」「保管形式」「保管場所」については記入しないこと。
注2）ドロップダウンリストから該当する項目を選択すること。
注3）該当する項目の☐をクリックし、チェックを入れる。

備　考

調査結果集計表

路線名		土壌高度指数	調査地点	調査間隔	浸食	ぬかるみ
H21	ブナ林散策道	25.4mm	53	30m	ー	ー
	高倉森コース	21.7mm	197	30m	ー	6
	太夫峰コース	18.2mm	32	100m	ー	ー
H22	マテ山コース	22.7mm	220	30m	78	68
H23	二股コース	19.4mm	41	100m	35	1
	十二湖コース	17.1mm	96	100m	23	8

〇調査結果を踏まえた今後の利用のあり方の検討検討

調査結果については、世界遺産地域の利活用に知見を有する国立歴史民族博物館の柴崎茂光氏、自然公園の管理に知見を有する青森大学の藤田均氏、自然環境NGOである青森県自然観察指導員連絡会の小関孝一氏、西目屋自然保護官事務所主席自然保護官、東北森林管理局自然遺産保全調整官、津軽森林管理署流域管理調整官、各市町村担当課長、青森県観光企画課長、青森県自然保護課長を構成員とした「白神山地生物多様性保全検討会」を設置し、結果を踏まえた今後の利用のあり方の検討を行った。（各年度毎に委員会を開催）

その結果、いずれの調査箇所においても浸食等は見られるものの、オーバーユースによる著しい荒廃は認められず、土質や地形の特徴など自然由来の荒廃と考えられる。そのため特段の利用規制は必要としないが、荒廃を防止するための簡易な対策等は必要であるとした。